

2022 年度 事業報告書

事業実施の方針

- ・「困った時はおたがいさま」の心で助け合い、助け合いの輪を地域に広げる
- ・一人一人の困難に向き合い、その人がその人らしく生活できるよう、心に寄り添う支援を行う
- ・世代を超えた人と人との絆を大切にし、互いに学び合い、支え合いながら、生きがいや自己の実現につなげる

2022 年度 目標

「理念と言行の一致」

一人一人が、絆のミッションを確認し、意識や行動に反映させる

2022 年度の取り組み・成果・残された課題

- ・コロナ禍も3年目に入り、疲れや新たな不安要素にも見舞われたが、助け合い、支え合いながら何とか乗り越えることができた。
- ・居場所のリニューアルを通して、これまで出会うことのなかった人たちにも、絆の活動を伝え、協力していただくことができた。
- ・地域の人たちには大いに利用され喜ばれている居場所等の活動が、会員の皆さんに理解され、利用や協力が得られているか不安が残る。理解を得る努力をしていきたい。

2023 年度 事業計画書

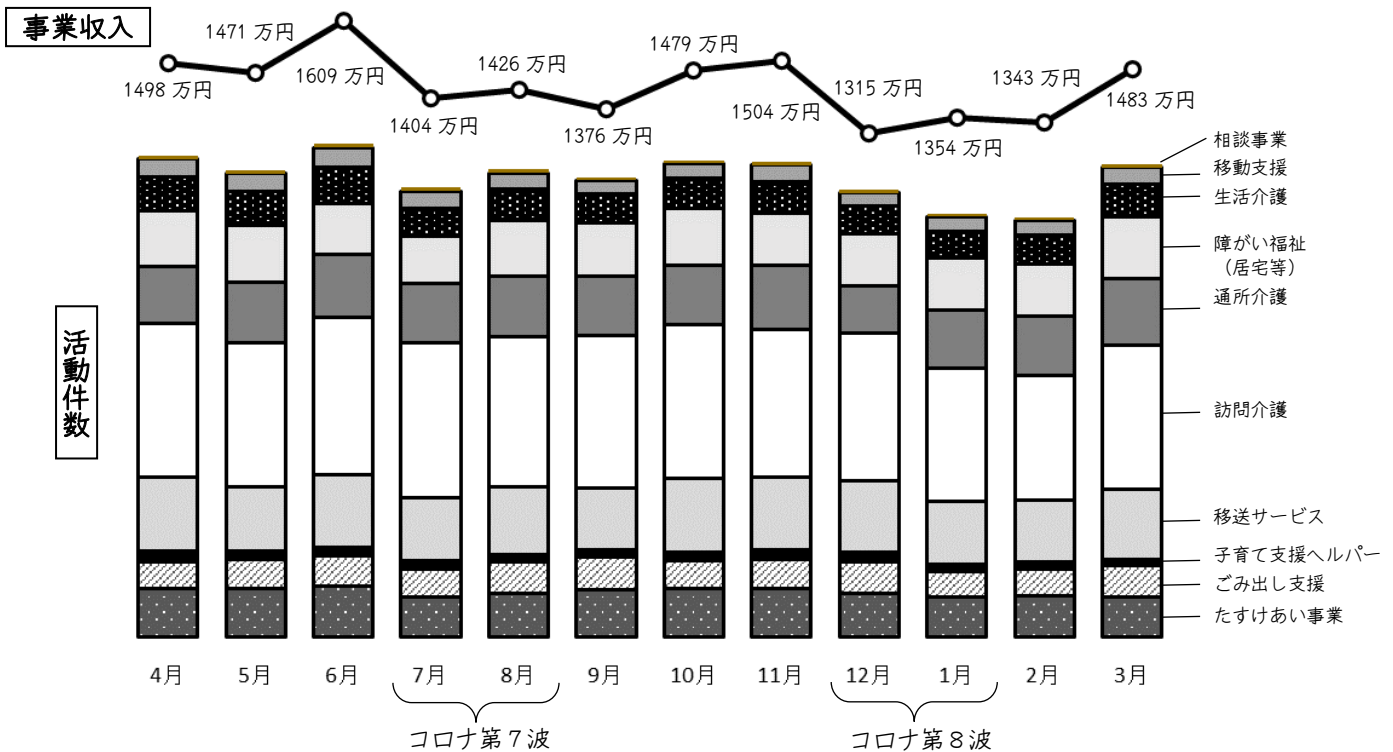
2023 年度 目標

「チーム絆を意識して、ワクワクをみんなで作ろう」

一人一人が絆チームの顔として責任を持ち、まちづくりを一緒に楽しみましょう♪

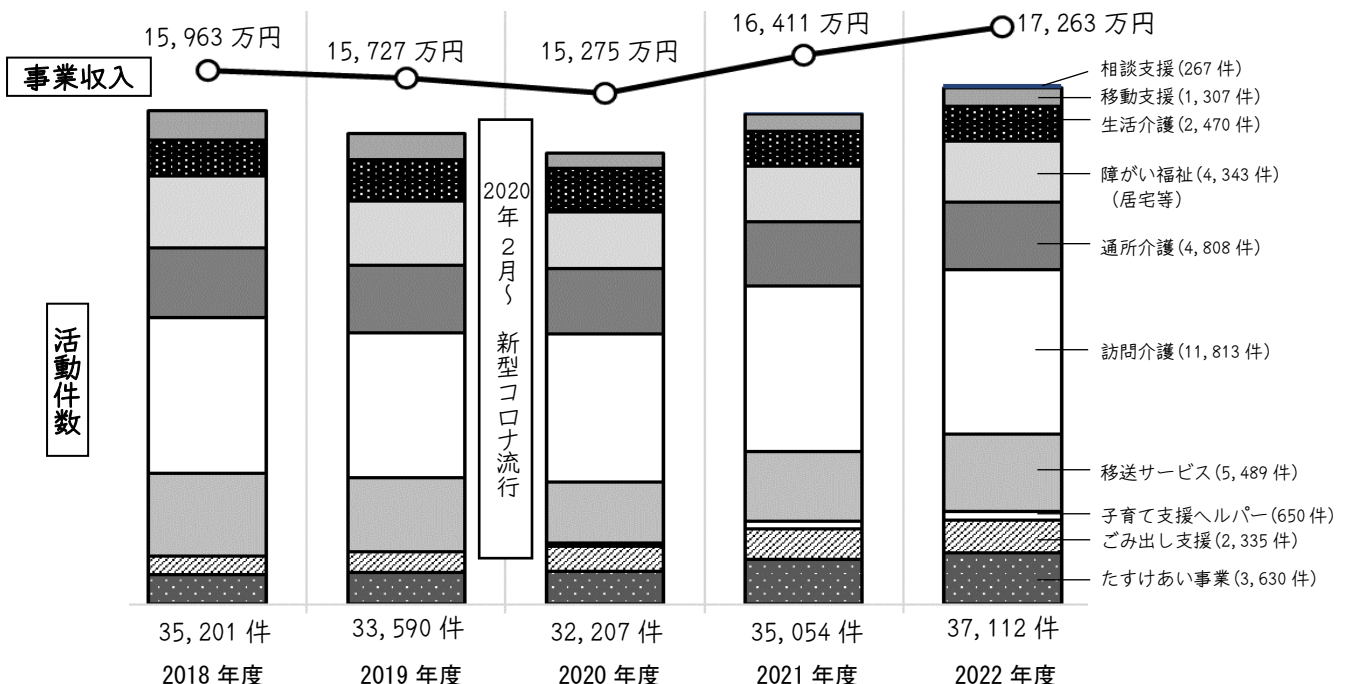
グラフでみる 2022年度

① 年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業・物品販売を除く）



新型コロナウイルスの2度の大流行時のキャンセルや、12月には通所事業で休業を行った影響が若干見られるが、年間を通してコロナ前を超える水準まで回復してきた。特に訪問系は、件数・収入ともに軒並み増加しているが、それを支える担い手不足が新たな課題となっている。

② 5年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業・物品販売を除く）



I. 特定非営利活動に係る事業

たすけあい

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

現行の公的制度では対応ができない家事援助・身体介護・話し相手・子育て支援・代行などの在宅支援や、家で一人では心配な方などに、気軽に通える場の提供などを行う

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 66 人(▲7 人) 【実施日】 通年随時 年間 3,630 件(+453 件)

【受益者】 絆会員 137 人(+23 人) 【事業収益】 7,851,944 円(+414,003 円)

2022 年度 目標

- ・ニーズ増加に応えられるよう担い手を増やし、安心・安全なサービスを実施する



活動内容・成果・残された課題

- ・子育て支援で「たすけあい」を併用した日常的な支援があったため、件数実績が伸びた
- ・介護保険や障がい福祉制度との併用も目立ち、事業の多様性を活かせたと思う
- ・コロナ禍の収束に伴い、今後多くのニーズが表出すると思われるため、できる限り応えられるよう人員体制を整える必要がある
- ・日常的に子育て支援をしていたお子様の入園により支援中止となった方や、定期の透析支援が「たすけあい」事業から他事業に移行したケース等が重なり、2023 年度は件数の減少が見込まれる

事業計画

【従事者人数】 絆会員 70 人 【実施日】 通年随時 年間 3,000 件

【受益者】 絆会員 150 人

2023 年度 目標

困った時に頼れる事業所となれるよう、地域住民の方、関係機関の方々に「たすけあい」事業でできる事の具体例を示し、様々な活用術の提案を積極的に行う

移送サービス（福祉有償運送）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：移送サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 病院、施設等

事業概要

通院や買い物、社会参加など、外出の際に公共交通機関を利用して出かけられない方へ、福祉有償運送サービスを行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 42 人(+4 件)

【実施日】 通年随時 年間 5,489 件(+515 件)

【受益者】 絆会員のご利用者 208 人(+39 人)

【事業収益】 10,132,260 円(+606,050 円)

2022 年度 目標

- ・ニーズ増加に応えられるよう担い手を増やすとともに、定期的な講習会を開催し、安心・安全なサービスを実施する

活動内容・成果・残された課題

- ・通院のための移送依頼が目立ち、ニーズの高さを感じている
- ・福祉有償運送のニーズが継続的に増加しているが、福祉有償移送の対象にならない方の問い合わせも多く、条件などの周知も課題となった
- ・有資格者の増員を目指したいところだったが、コロナにより講習会が開催されず、人員不足の状況が続いた。今後はコンスタントに受講し、人員確保に努めるとともに、若年化を図りたい



事業計画

【従事者人数】 絆会員 48 人 【実施日】 通年随時 年間 5,800 件

【受益者】 絆会員のご利用者 230 人

2023 年度 目標

担い手を増やしていくことで、通院等必要不可欠なニーズから、多種多様なニーズにも応える

訪問介護（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号訪問事業
【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 53人(±0人) 【実施日】 通年随時 年間 11,813件(+17件)
【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 195人(+16人) 【事業収益】 43,943,945円(+1,244,136円)

2022年度 目標

「定期訪問の実施」「チームカアアップ」

- ・最低6か月に1回、サービス提供責任者がモニタリングを実施
- ・ICT化を進め、情報共有と迅速な対応でサービスの質向上を目指す
- ・モニタリング前後で活動者に意見を聞き、事例検討や研修会につなげる
- ・引き続き感染症対策を維持し、安定的な支援の継続が可能な体制を整える



活動内容・成果・残された課題

- ・ラインワークスを継続的に利用し、ご利用者に関する情報共有や迅速な連絡調整等に役立てることができた
- ・コロナ対応など、緊急的な対応が断続して起こり、「定期訪問の実施」等サービス提供責任者の業務を計画的に実行することができなかった
- ・事例検討会はコロナ感染症の状況をみながら、必要最低限の開催となってしまった
- ・新たに導入した介護ソフトの活用範囲を段階的に広げ、2023年度中に活動記録のペーパーレス化へのスムーズな移行を目指す

事業計画

【従事者人数】 絆会員 58人 【実施日】 通年随時 年間 12,000件
【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 200人

2023年度 目標

「小さなことも声をかけあい、協力！前進！」

- ・ご利用者の支援目標に向かって、小さなことでも伝え合い、連携・協力して質の高いサービスにつなげる
- ・いくつになっても、苦手なことや新しいことへの挑戦ができる体制、雰囲気をつくりあげる

子育て支援ヘルパー（児童課委託）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町 利用者宅 または 病院等

事業概要

妊婦または乳幼児のいる母親が、病気などで家事・育児が困難な際にヘルパーを派遣し、子育てを支援する

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 23 人(▲7 人)

【実施日】 通年随時 年間 650 件(+197 円)

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 15 人(▲7 人)

【事業収益】 2,854,500 円(+335,115 円)

2022 年度 目標

- ・ 多種多様なニーズをもったご利用者（親御さん、お子さん）に対し、的確な支援が実施できるよう、事前の研修や事例検討会を実施していく

活動内容・成果・残された課題

- ・ 多くの支援者が関わるご利用者の事例検討会を開催し、支援の統一や方針の確認をすることができた
- ・ ご利用者の不安にこえるために、児童課と一緒に連携や情報共有について考えることができた
- ・ 児童課からの依頼数が不安定な部分もあり、従事者の過不足が生じている



事業計画

【従事者人数】 絆会員 20 人 【実施日】 通年随時 年間 500 件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 12 人

2023 年度 目標

- ・ 支援者同士のコミュニケーションも密にし、統一したサポート体制を築く
- ・ 随時児童課とも情報共有し、支援終了後も安心して子育てができるよう橋渡し役となる

障がい福祉（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）

【実施場所】東浦町及び近隣市町の利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員 52人(+5人) 【実施日】通年随時 年間 4,343件(+407件)

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 39人(▲1人) 【事業収益】22,782,632円(+2,747,009円)

2022年度 目標

「定期訪問の実施」「チームカアアップ」

- ・最低6か月に1回サービス提供責任者がモニタリングを実施
- ・ICT化を進め、情報共有と迅速な対応でサービスの質向上を目指す
- ・モニタリング前後で活動者に意見を聞き、事例検討や研修会につなげる
- ・引き続き感染症対策を維持し、安定的な支援の継続が可能な体制を整える



活動内容・成果・残された課題

- ・ラインワークスを継続的に利用し、ご利用者に関する情報共有や迅速な連絡調整等に役立てることができた
- ・コロナ対応など、緊急的な対応が断続して起こり、「定期訪問の実施」等サービス提供責任者の業務が計画的に実行することができなかった
- ・事例検討会はコロナ感染症の状況をみながら、必要最低限の開催となってしまった
- ・新たに導入した介護ソフトの活用範囲を段階的に広げ、2023年度中に活動記録のペーパーレス化へのスムーズな移行を目指す
- ・同行援護従事者の増員を検討したい

事業計画

【従事者人数】絆会員 58人 【実施日】通年随時 年間 4,500件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 40人

2023年度 目標

「小さなことも声をかけあい、協力！前進！」

- ・ご利用者の支援目標に向かって、小さなことでも伝え合い、連携・協力して質の高いサービスにつなげる
- ・いくつになっても、苦手なことや新しいことへの挑戦ができる体制、雰囲気をつくりあげる

移動支援（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町の利用者宅 または 外出先

事業概要

ご利用者の意思を尊重し、気持ちに寄り添いながら、その人らしく過ごせる余暇支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 57 人(+8 人)

【実施日】 通年随時 年間 1,307 件(+29 件)

【受益者】 絆会員のご利用対象者 82 人(+25 人)

【事業収益】 10,379,354 円(+241,590 円)

2022 年度 目標

「チームカアアップ」

- ・定期的に活動者や関係機関に意見を聞き、支援の質向上につなげる
- ・活動者が安心して活動できるよう、緊急時対応等の研修を実施していく
- ・引き続き感染症対策を維持し、安定的な支援の継続が可能な体制を整える



活動内容・成果・残された課題

- ・コロナ状況に左右され、行動範囲が制限されたが、できる限りの対応を心がけた
- ・今後も感染症対策を継続しながら、社会状況に応じて柔軟な対応を考えていく
- ・行動制限緩和に伴い、多様な行き先や要望が生じる可能性を鑑み、改めて移動支援の意義や緊急時対応（災害や急な体調不良等）を確認していきたい

事業計画

【従事者人数】 絆会員 60 人 【実施日】 通年随時 年間 1,400 件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 90 人

2023 年度 目標

「小さなことでも声をかけ合い、協力！前進！」

- ・支援の経過やタイムリーな情報共有に努め、ご利用者が安心して、そして満足できる外出ができるようにする
- ・活動者が安心して活動できるよう、緊急時対応等の研修を実施していく

ごみ出し支援（環境課委託）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】東浦町 ご利用者宅

事業概要

同一世帯で65才以上の方、もしくは避難行動要支援者名簿に登録されている方を対象に、1回50円で、燃えるごみをご自宅からごみステーションまで運び出す、ごみ出しの支援

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員・ボランティア 14人(▲8人)

【実施日】毎週火・木曜日 朝 年間 2,335件(+137件)

【受益者】東浦町内ご利用対象者 64人(▲3人)

【事業収益】1,179,035円(+15,620円)

2022年度 目標

- ・ヘルパーステーション絆や民生委員とも連携しながら、ご利用者の状況やその地域の人的資源の把握に努め、より身近な地域でのたすけあいの輪を拡げる
- ・ボランティア数、10%増

活動内容・成果・残された課題

- ・ケアマネジャーの紹介で利用を開始される方が多かった
- ・新規のご利用者も一定数あるが、ご逝去や施設入所のため中止される方もあり、受益者数はほぼ横ばいとなった
- ・民生委員とは面談の機会や連絡の手段がつかず、困難であった
- ・新規従事者をほとんど開拓できておらず、ボランティアさん一人一人の負担が大きくなっているため、今後も状況を判断(確認)しながら割り当てなどを行う



事業計画

【従事者人数】絆会員・ボランティア 18人 【実施日】毎週火・木曜日 朝 年間 2,500件

【受益者】東浦町内ご利用対象者 65人

2023年度 目標

- ・ご利用者に満足していただける活動を円滑に素早くできるようにする
- ・身近な地域でのボランティア発掘を継続する

通所介護（デイサービスセンター 絆）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号通所事業

【実施場所】地域たすけあいセンター 絆

事業概要

自己選択、自己決定の仕組みを大切に、ご利用者一人一人の意思を尊重し、生きがいのある楽しい1日になるよう支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員 34 人（▲2 人）

【実施日】月～金曜日 年間 4,808 件（+175 件）

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 58 人（±0 人）

【事業収益】42,942,286 円（+2,198,943 円）

2022 年度 目標

聴いて 感じて 心の声をキャッチし 見極めよう

活動内容・成果・残された課題

- ・ご利用者お一人お一人に耳を傾け、会話の中からその方が挑戦したい事、生き生きできる事を考え、提案することができた。
- ・課題の対応策を話し合い、環境を変えたり、アプローチの仕方を変えたりと、寄り添った支援ができよう工夫しながら取り組んでいきたい。



事業計画

【従事者人数】絆会員 35 人 【実施日】月～金曜日 年間 5,000 件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 60 人

2023 年度 目標

チームで支え 感じて ワクワク 行動へ

生活介護（さくさく工房 絆）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業

【実施場所】地域たすけあいセンター 絆

事業概要

- ・日常的に介護を必要とする方に対して、日中活動を行う
- ・自己選択・自己決定を大切にし、ご利用者の気持ちに寄り添う支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員 27 人(▲1 人)

【実施日】月～金曜日 年間 2,470 件(▲4 件)

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 28 人(+2 人)

【事業収益】27,330,602 円(▲1,838,836 円)

2022 年度 目標

「行動する」そして続けよう

活動内容・成果・残された課題

- ・「行動する」目標をご利用者一人一人に決めてもらった
- ・少なくとも3か月は続けてみよう、各自の目標をホワイトボードに貼り、「誰がどんな目標で、今どのくらい続けているのか」を見える化。それにより、担当スタッフだけでなく、皆から励まされ、見守られた事により、多くの方が目標を達成
- ・新たな役割や生活習慣が身についた方もいた
- ・楽しむことを見つけるのが苦手な方もいらっしやるので、一緒に楽しみを探したり、発表する機会を作ったり、仲間と嬉しさを分かち合うことが出来るよう工夫していきたい



事業計画

【従事者人数】絆会員 27 人 【実施日】月～金曜日 年間 2,500 件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 30 人

2023 年度 目標

チームさくさくで「わくわく」をあつめよう！！

相談支援（相談支援センター 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業・児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 及び 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

日常生活全般の相談を受け、その人らしく生活が送れるよう「サービス利用計画書」等の作成を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 4 人(±0 人)

【実施日】 月～金曜日 267 件(+222 件)

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 48 人(+25 人)

【事業収益】 3,233,364 円(+2,565,087 円)

2022 年度 目標

- ・ 関係機関とのホウレンソウをパワーアップ
- ・ ご利用者と家族の伴走者となる

活動内容・成果・残された課題

- ・ 新規やセルフプランの解消のための計画相談を積極的に受け入れた
- ・ モニタリングは積極的に事業所等を訪問し、ご本人やご家族・事業所職員の話丁寧を聞き、現状の把握に努めた
- ・ 業務範囲を見直し、より多くの方の相談を受けられる工夫をする
- ・ より多様なケースにも対応できるスキルを積み上げる



事業計画

【従事者人数】 絆会員 5 人 【実施日】 月～金曜日 年間 360 件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 70 人

2023 年度 目標

チームで“相談力”をアップする

居場所事業

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 さをり工房 あんきにきて家(さをり織り)

地域たすけあいセンター絆 風ハウス(コミュニティカフェ・お茶を楽しむ会)

事業概要

どなたでも利用できる居場所として、「さをり織り教室」「風喫茶」「お茶を楽しむ会」を定期開催し、絆を身近に感じてもらう

事業報告

※()内は前年度比

さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 1人(±0人)

【実施日】 火・木・土曜日 年間107日(±0日)

【受益者】 絆会員 延べ 633人(+118人)

【事業収益】 818,860円(+123,620円)

コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 7人(▲8人)

【実施日】 第3金曜日 年間11日(▲5日)

【受益者】 地域の方 延べ 413人(▲288人)

【事業収益】 79,800円(▲76,100円)

お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 2人(±0人)

【実施日】 月1回 水曜日 年間10日(±0日)

【受益者】 地域の方 延べ 333人(▲52人)

【事業収益】 75,505円(▲5,690円)

2022年度 目標

コロナ感染予防対策を継続し、安心できる居場所を提供すると共に、絆の事業に関心を持ってもらう

活動内容・成果・残された課題

- ・毎月2回行っていた風喫茶を、月に1度の開催に縮小した
- ・どの居場所も、密になり過ぎないように配慮しながら定期開催を続けることができた
- ・さをり織り作品展を通して、さをり織りの魅力や絆の活動を知ってもらう機会となった
- ・関心はあるが一歩が踏み出せないというご近所の方々も、気軽に参加できるようなPRを考えていきたい

事業計画

さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 1人

【実施日】 火・木・土曜日 年間 110日

【受益者】 絆会員 延べ 660人

コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 8人

【実施日】 第3金曜日 年間 12日

【受益者】 地域の方 延べ 450人

お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 2人

【実施日】 月1回 水曜日 年間 12日

【受益者】 地域の方 延べ 400人

2023年度 目標

居場所を、新たな出会いの場所に♪



さをり織り作品展 ~2022~

千支のうさぎをテーマに開催



お茶会

毎月1回 風ハウスにて開催



福祉拠点普及促進コーディネーター事業(ふくし課委託)

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、ラソプラザ等

事業概要

地域住民が担い手として活動する場の確保、人材育成、居場所に関する相談・研修・啓発・協議体への参加協力を行う

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 2人(±0人)

【実施日】 通年随時

【受益者】 地域の方

【事業収益】 6,900,000円(±0円)

2022年度 目標

多様な居場所づくりに関わり、新たな試みにチャレンジする

活動内容・成果・残された課題

- ・新たな試みとして、地域住民対象の居場所セミナーで、これまでにない「防災を意識した居場所づくり」をテーマとし、東日本大震災の被災当事者で車椅子ユーザー、地区防災会住民、ふくし課と防災危機管理課の課長さん方にご参加いただき、パネルディスカッションを行った。より多くの方に、日頃のつながりや、居場所の大切さを伝えることができた
- ・居場所ワークショップでは、新たな地域の方や多世代の方に参加・協力していただくことができた
- ・夜に開催していた月に一度の相談会は活用されるに至らず、見直しが必要と考えて、12月いっぱい終了とした。今後、新たな相談の仕組みを考えていきたい



事業計画

【従事者人数】 絆会員 2人

【実施日】 通年随時

【受益者】 地域の方

2023年度 目標

東浦町全体の居場所の発展を視野に入れた実践と、立ち上げの相談に力を入れる

常設居場所事業（地域の縁側 グリーン・ラソ）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】地域の縁側 グリーン・ラソ

事業概要

0～100歳、どなたでも利用できる、自分らしく活躍できる居場所を提供するとともに、絆を知っていただく機会を設ける

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員・ボランティア 112人(+19人)

【実施日】月～金曜日 年間 237日(+18日) ※貸し出しを除く

【受益者】地域の方 延べ 9,331人(+3428人)

【事業収益】2,367,305円(+920,295円)

2022年度 目標

世代を超えてたくさんの人たちが絆を紡ぎ、心地よく過ごせる居場所を目指す



活動内容・成果・残された課題

- ・夏休みの寺子屋、Bee テラスでの食事、ランチの活用等児童館との繋がりや交流が活発に行えた
- ・東浦町の Re-Bone グルメの提供店としてスタンプラリーに協力したことがきっかけで、新たな来場者につながった
- ・土日に居場所として活用したいというグループが増え、多世代の利用につながった
- ・Bee テラスを活用して始まった「縁側ラソ市」を通して、買い物や物品寄付など、関心を寄せてくださる人が増え、収益にもつながった
- ・当番してくださる人材の確保と、まかないシェフさんの改革が課題

事業計画

【従事者人数】絆会員・ボランティア 120人 【実施日】月～金曜日 年間 239日

【受益者】地域の方 延べ 10,000人

2023年度 目標

- ・当番やシェフさん、講師等の人材確保
- ・コロナ禍で中止していた夜のイベントを、状況をみながら復活する

常設居場所事業（地域の縁側 ラソプラザ）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域の縁側 ラソプラザ

事業概要

食を介して、地域の方が気軽に集まれる居場所を提供するとともに、ボランティアとしてどなたでも自分らしく活躍できる場を設ける

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 81 人(+42 人)

【実施日】 火～金曜日 年間 192 日(▲2 日) ※貸し出しを除く

【受益者】 地域の方 延べ 8,417 人(+1,730 人)

【事業収益】 3,348,746 円(▲3,635 円)

2022 年度 目標

ラソプラザの利用者数を 10%アップ



活動内容・成果・残された課題

- ・地域住民を交えたワークショップの結果、アップサイクルプロジェクトに取り組むことになり、残念ながらこれまでの体制やメニューは、9月で終了することとなった
- ・10月の1カ月を休館とし、ご寄付いただいた家具を使って店内をリニューアル。幼児から80代まで、老若男女、多くの人（約150名）に関わってもらうことができた
- ・喫茶店風の居場所を強調するため「地域の縁側 ラソ・プラザ」を「地域の縁側 喫茶 ラソプラザ」に改名したが、リニューアルと共に「地域の縁側 ラソプラザ」とし、開館時間やメニュー等の見直しを図った
- ・新たに子どもの居場所としての取り組み「宿題塾」を始めたが、教師OBの理解を得ることが難しく、思ったように利用する子どもの数も増えなかったため、抜本的な対策が課題として残った

事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 80 人 【実施日】 火～金曜日 年間 195 日

【受益者】 地域の方 延べ 10,000 人

2023 年度 目標

新たな出会いを力にする！

Ⅱ. その他の事業

物品販売に関する事業

【事業名】 その他の事業：物品販売に関する事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、地域の縁側 ラソプラザ等

事業概要

- ・季節の野菜や手作り品の販売、リサイクル品の寄付を通して、活躍できる・楽しめる場を提供する
- ・絆まつり、於大まつり、にじいろフェスタの出店を通して、地域の方と交流を図り、絆を知っていただく

事業報告

※()内は前年度比

【実施日】 月～金曜日（ふれあいマーケット）

【受益者】 地域の方 【事業収益】 848,785 円(+297,555 円)

2022 年度 目標

物品販売を、さらに新たな出会いにつなげよう！

活動内容・成果・残された課題

- ・季節の野菜や果物の販売は、多くの人に喜ばれ、出品者にも張り合いになった
- ・常設居場所でのフリーマーケット「ラソ市」が周知され、交流を生み、収益にもつながった
- ・3ヶ所のふれあいマーケット「ラソ市」の物品を循環させ、オール100円で販売し、新たな地域の方にも活用していただけた
- ・多くの物品のご寄付がある中、整理が追い付かず、常に置き場が煩雑になってしまった
- ・受け取りが難しい物（毛布、座布団、汚れた物等）が許可なく置かれる対策が課題である



事業計画

【実施日】 月～金曜日（ふれあいマーケット）・随時（まつり模擬店） 【受益者】 地域の方

2023 年度 目標

- ・物品販売を、地域の方との交流や参加のきっかけづくりに活用し、絆の理解や周知につなげる
- ・コロナ禍で中止していた「絆まつり」を復活させる

Ⅲ. 委員会活動

感染症対策委員会

【委員長】石川 美恵 【委員数】6名 【開催回数】年間4回

2022年度 目標

より実効性のある感染対策BCPを作成し、各部署に浸透させる

活動内容・成果・残された課題

- ・新型コロナウイルス感染症に対する社会の認識が大きく変化する中で BCP の更新が追い付かず、各部署への浸透は不十分だったが、日々の対策において臨機応変に活用した
- ・『発熱等情報 受付票』を作成し、体調不良者についての情報共有と感染リスクの検討・感染拡大の回避につなげた
- ・「濃厚接触者」の定義を確認し、該当者の自宅待機期間の厳格な運用を提言することにより、クラスターの予防に努めた
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、事業所としての方針や対策の検討、変化に合わせた運用が今後の課題である

2023年度 目標

コロナウイルスをはじめとした感染症に対し、感染状況の把握とそれに応じた注意喚起を行い、迅速な対策を提言する

ここ de キャッチ委員会

【委員長】中村 希代美 【委員数】6名 【開催回数】年間12回

2022年度 目標

- ・年4回の虐待防止セルフチェックリストの実施
- ・虐待防止に関する研修の実施と、虐待・虐待疑いの事例検討会の定期開催

活動内容・成果・残された課題

- ・全職員を対象とした虐待防止セルフチェックを年4回行った
- ・セルフチェックの回答率を上げるため、今後応えやすいよう設問の見直しを検討する
- ・身体拘束に関する事例検討を行い、必要に応じて同意書を作成した
- ・今後は、身体拘束を実施した際の記録やモニタリング等、運用の仕組みを整えていきたい

2023 年度 目標

- ・虐待防止セルフチェックの内容の見直しと精度アップ
- ・身体拘束適正化に基づき、必要な記録・検討の場の整備・ルール作り

チャレンジアップ委員会

【委員長】中村 希代美 【委員数】5名 【開催回数】年間8回

2022 年度 目標

より多くの活動者がネット研修を活用できるよう、サポートと啓蒙を行う

活動内容・成果・残された課題

- ・対面研修の開催を検討したが、社会情勢を鑑み、今年度もオンライン研修のみを行った
- ・年度途中で研修内容を見直し、現場に合った研修へ変更することができた
- ・対面研修復活に向け、オンタイムで研修が受けられない活動者へのフォロー体制構築が必要
- ・今後、オンライン研修の継続について検討していく

2023 年度 目標

- ・より多くの活動者が自己研鑽に取り組めるよう選択肢を提供する

防災委員会

【委員長】亀石 綾穂 【委員数】6名 【開催回数】年間15回（会議12回, 訓練2回, 講演会1回）

2022 年度 目標

- ・BCPの内容の充実
- ・避難マニュアルの見直し

活動内容・成果・残された課題

- ・BCPの年間計画に沿って活動を行った
- ・居場所セミナー「防災を意識した地域づくり」講演会とパネルディスカッションを開催
参加者 73名（役場職員11名 絆15名含む）
- ・避難訓練マニュアルの見直しを行った
- ・今後、災害発生時のご利用者への対応（通所時被災、自宅被災）を考えていきたい

2023 年度 目標

- ・防災意識向上の啓発

まつり委員会

【委員長】村瀬 文康 【委員数】未定 【開催回数】0回

2022 年度 目標

まずは、絆まつりに替わるイベントを、小規模でも行えないか模索する

活動内容・成果

絆まつりの開催を模索するが断念。11月のにじいろフェスタに参加し、フリーマーケットを出店

2023 年度 目標

絆まつりの再開！！

リスク管理委員会

【委員長】富田 真理子 【委員数】6名 【開催回数】年間15回（臨時委員会含む）

2022 年度 目標

- ・発生問題の真因追及と対策をフォローをし、標準化を進める
- ・『ひやり・はっと報告書』の電子化および情報のデータベース化を進める

活動内容・成果・残された課題

- ・『ひやり・はっと報告書』提出の意識が定着し、再発予防対策をすることにより、事故や苦情を未然に防ぐ仕組みが構築できた（年間370件提出）
- ・月1回の委員会および臨時委員会の開催により、発生事例の対策状況や経過を把握し、再発防止に向けたフォローを実施した
- ・『ひやり・はっと宅急便』を随時発行し（16回発行）、全活動者に対し、重要案件の事例共有と再発防止の啓発をした
- ・『ひやり・はっと報告書』のデータベース化をすすめ、分析や検討のうえで、委員会からの客観的な対策の提案等、応用していけるようにしたい
- ・他事業所の取り組みや進め方も参考にしていきたい

2023 年度 目標

- ・多発項目の中で「忘れ」「間違い」の対策を重点的に取り組む
- ・発生問題のデータベース化と、『ひやりはっと報告書』の提出電子化（報告提出の手段を増やす）
- ・標準化項目の洗い出しと標準化の実施（マニュアル作成と教育）